

テーマ

がん在宅医療情報検索システムの構築

申請者	氏名	永井 洋士		
	所属機関	臨床研究情報センター 臨床試験運営部	職名	主任研究員
	所属機関 所在地	〒650 - 0047 神戸市中央区港島南町1丁目5番地4 〔TEL〕(078)303-9093		

提出年月日：2004年8月31日

がん医療は病院内のみで完結するものではなく、在宅医療の役割が大きいことは改めて言うまでもない。とりわけ、今後のがん化学療法は外来が中心になっていくことに鑑み、在宅医療の重要性が益々増大することは必至である。そこで、我々は、病院から外来へへのがん治療の移行を円滑にして在宅医療を促進するため、当センターで Web 配信している最新癌情報 PDQ\*日本語版 (<http://www.cci-japan.com/>) に地域の在宅医療情報をリンクして掲載することを計画した。

\*PDQ は、米国国立がん研究所 (NCI) が配信する世界最大かつ最高品質のがん情報データベースであり、そこには予防、検診、診断、治療、遺伝子情報、代替補完医療を含む最新のがん情報が包括的に網羅されている。我々はそれを完全に翻訳し、無料で Web 配信している。

これまでに、PDQ 日本語版ホームページからデータベースにリンクし、住所や必要とするサービス (訪問診療、中心静脈栄養、在宅酸素療法、疼痛管理など) によって自宅近くの在宅医療機関を検索できるシステムの原案を作成した。とりわけ、都市型をモデルとした検索システムを構築するため、医療機関の特性ごとに収集すべき情報を選択し、診療所向け、看護・介護ステーション向け、調剤薬局向けアンケート書式を作成した。アンケートでは、定量的な評価を視野に入れ、提供・支援可能な医療技術を 5 段階 (可能、支援があれば可能、自己施設への通院患者なら可能、病状・治療内容によって可能、不可能) で記載できるようにした。2003 年 10 月には、本アンケート用紙を市内の在宅医療機関に配布し、一部の施設から回答があった。しかし、差別化された情報の取り扱いと情報更新の方法について当センター内での意見が集約せず、情報発信のあり方について現在も検討を重ねている。加えて、地域の在宅医療機関との円滑な連携のあり方を確立することが大きな課題であることが明らかになった。

一方、欧米で第 1 選択薬として使われている薬剤にもわが国では未承認のものが多いことは周知の社会問題である。また、在宅治療を受けているがん患者にとって、自らが投薬を受ける薬剤についての情報は限られ、かつ、世界的な標準治療薬を知る権利が阻害されている可能性がある。このような状況に鑑み、我々は当初の方針を転換し、がんに関する薬剤情報を PDQ 日本語版にリンクして掲載することとした。この情報配信システムの構築に際しては、PDQ 及び Current Medical Diagnosis and Treatment に掲載されている全てのがん治療薬をデータベース化し、それが第 1 選択薬か第 2 選択薬か、本邦で承認されているか否か、加えて、販売会社に関する情報をも付加してデータベース化した ([http://www.cci-japan.com/medicine\\_index.html](http://www.cci-japan.com/medicine_index.html))。また、本検索システムでは、薬剤名から PDQ 内のがん情報へのリンクが貼られている。

本システムの完成により、医療関係者とがん患者は自宅にいながらにしてがん治療薬に関する包括的な情報を入手可能となった。在宅治療を受けるがん患者への情報提供の一助として、本検索システムは在宅医療を促進するインフラの一部になることが期待される。今後は、支持薬に関する情報を本システムに付加するとともに、情報の更新を行っていくことになる。

なお、本研究は、財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けて行われた。

図．がん薬剤情報検索システム（http://www.cci-japan.com/medicine\_index.html）

